

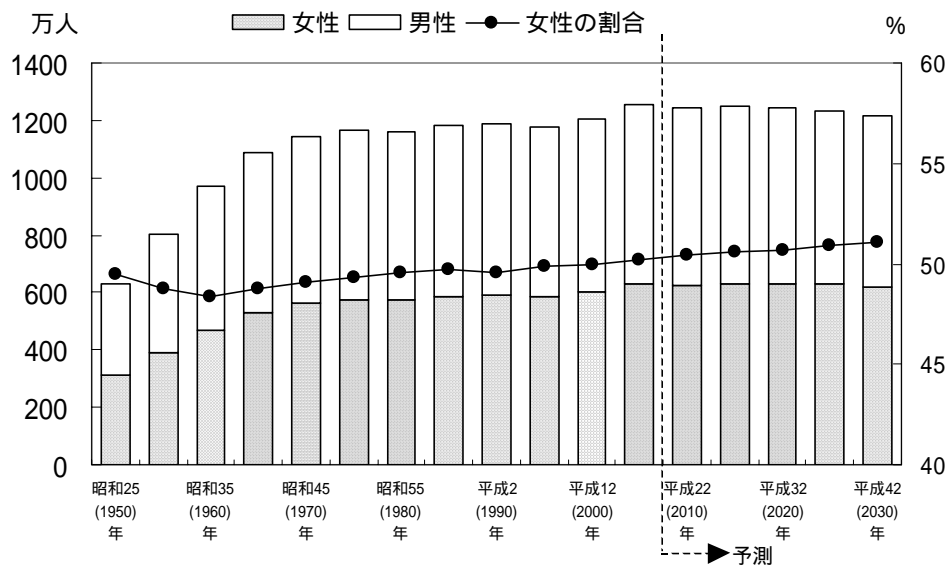
少子・高齢化をめぐる状況

1 男女の年齢別人口構成

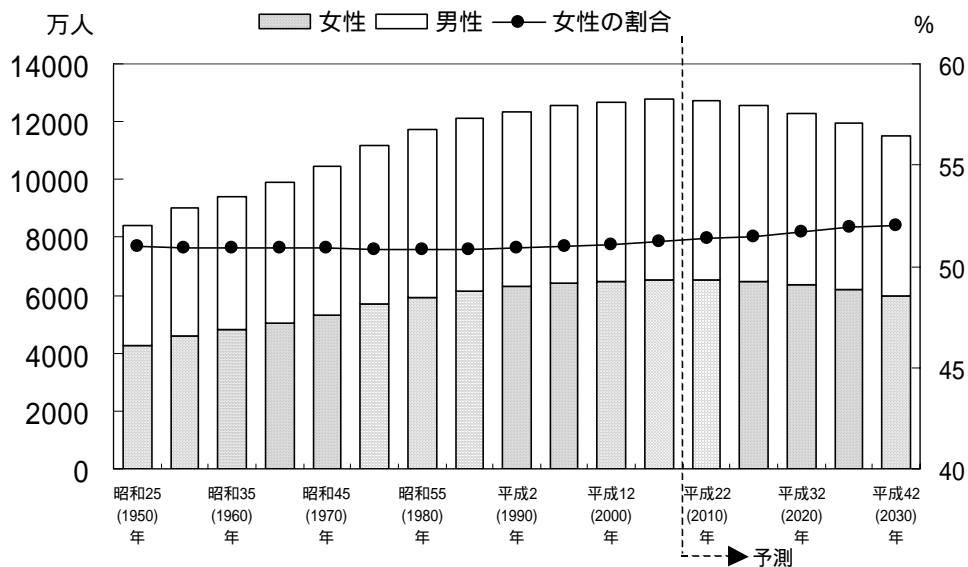
都の人口は2005年に1258万人と過去最高になったが、2030年には1215万人になると予測されている。全国の人口は2005年をピークに東京都の人口よりも速い速度で減少を続け、2030年には1億1522万人になると予測されている。

図表 - 1 - 1 男女の年齢別人口構成（都・全国）

<都>



<全国>



資料：総務省「国勢調査」

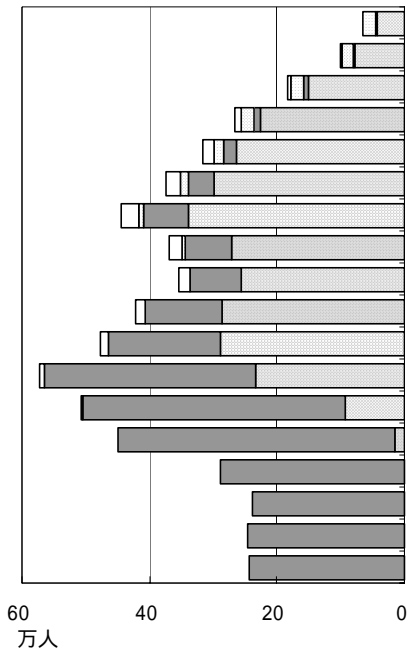
国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」2002年3月推計

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」2006年12月推計

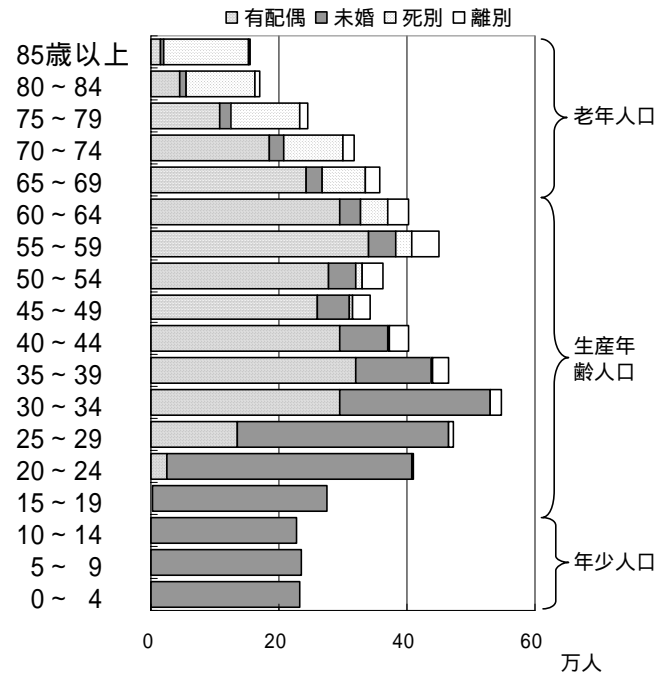
平成 17 年の人口を年齢構造（人口ピラミッド）で見ると、都・全国とも第 1 次・第 2 次ベビーブーム世代を含む 55～59 歳と 30～34 歳を中心とした 2 つの膨らみを持つ「ひょうたん型」に近い形となっている。

<都>

【 男性 】

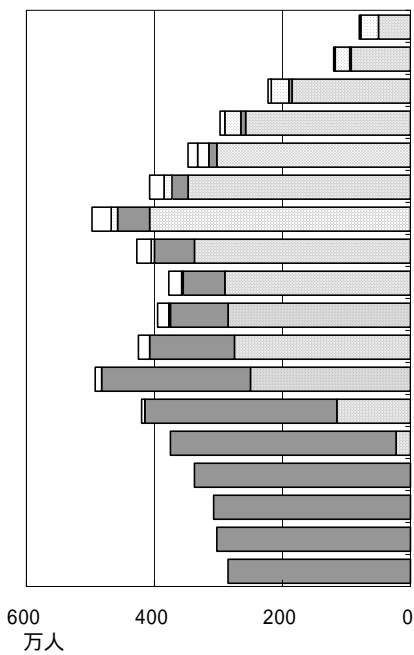


【 女性 】

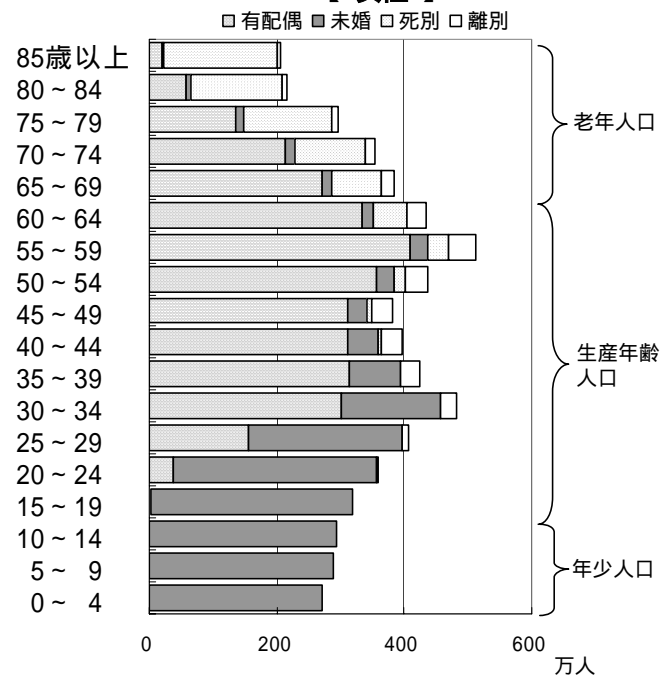


<全国>

【 男性 】



【 女性 】

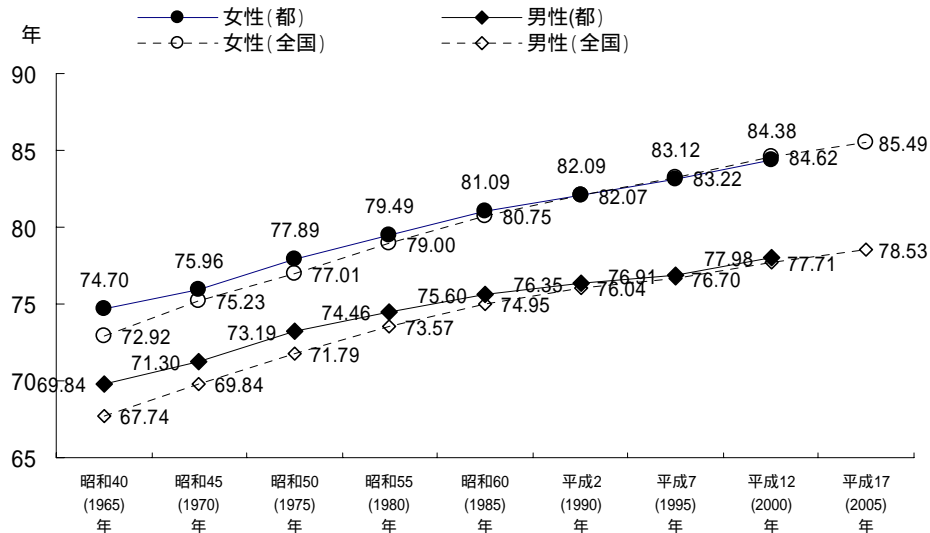


資料：総務省「平成 17 年国勢調査」

2 平均寿命、出生率と死亡率

平均寿命は上昇傾向にあり、平成 17 年の全国平均寿命は、女性は 85.49 歳、男性は 78.53 歳となっている。平成 17 年の都の出生率は 7.8、死亡率は 7.6 であり、その差は 0.2 となった。一方、平成 17 年の全国の出生率は 8.4、死亡率は 8.6 となり、死亡率が出生率を 0.2 上回っている。

図表 - 2 - 1 平均寿命(都・全国)

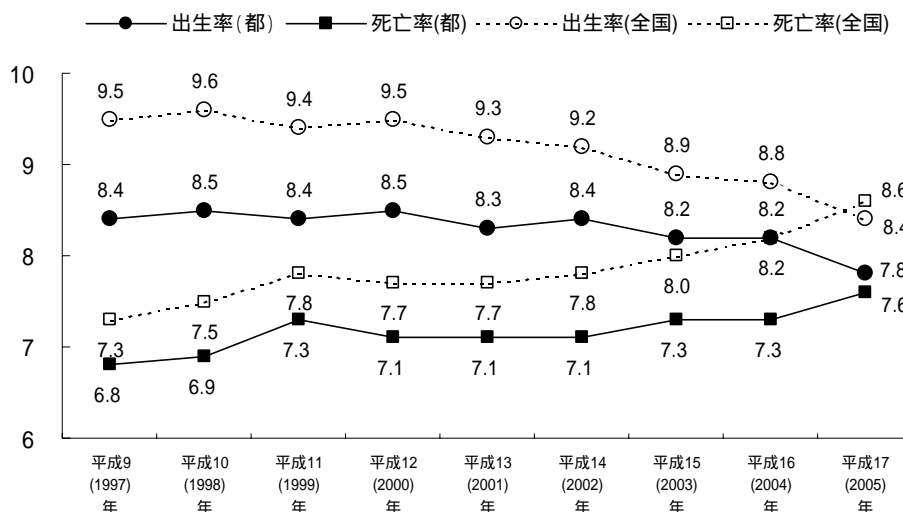


注：平均寿命は0歳の平均余命。その人口集団の保健福祉水準を示す総合的指標として広く活用されている。

資料：厚生労働省「都道府県別生命表」2000年

厚生労働省「簡易生命表」2005年

図表 - 2 - 2 出生率と死亡率(都・全国)



注1：出生率は人口千人に対する値。(出生率‰) = 1年間の出生数 / 10月1日現在人口 × 1000)

注2：死亡率は人口千人に対する値。(死亡率‰) = 1年間の死亡数 / 10月1日現在人口 × 1000)

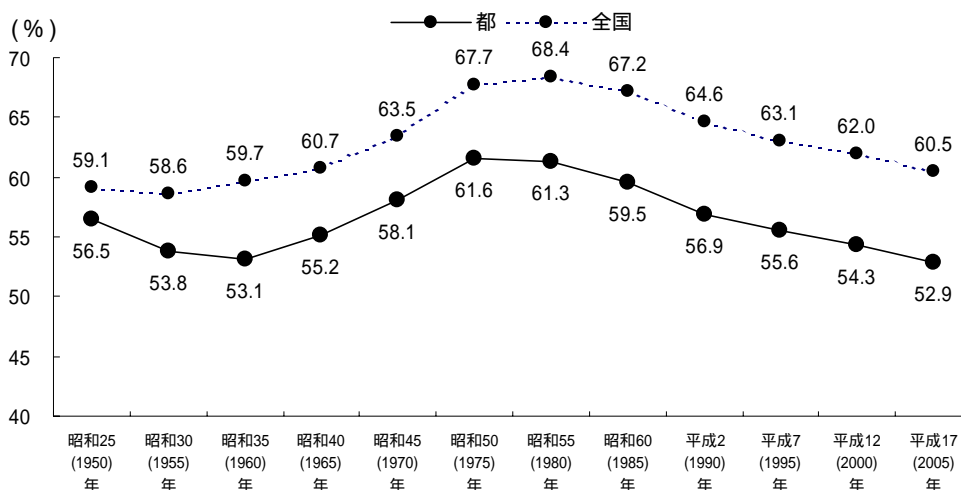
資料：東京都保健福祉局「人口動態統計年報」

厚生労働省「人口動態統計」

3 有配偶者の割合

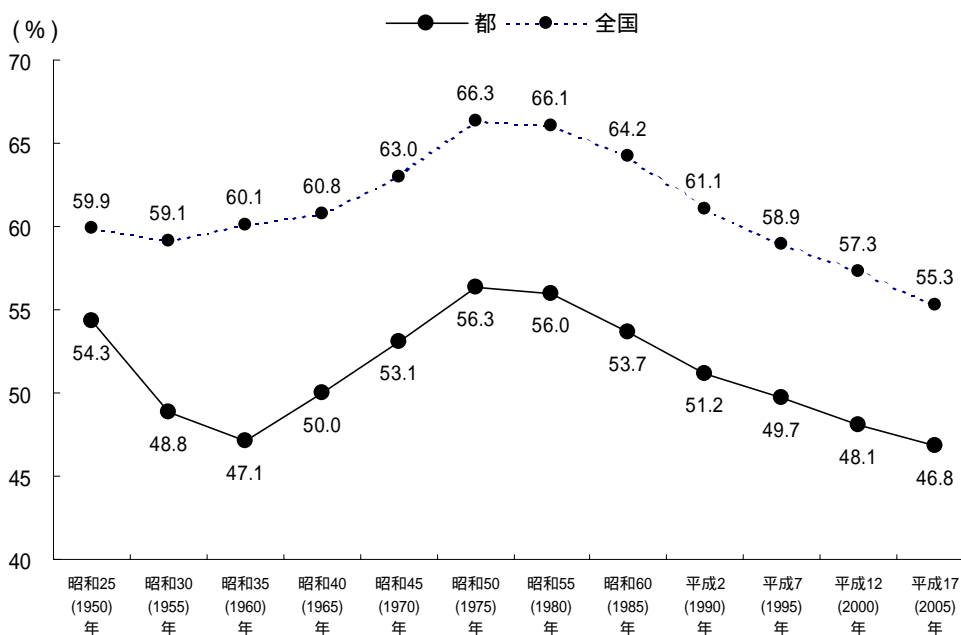
都の有配偶者比率は、男女とも全国より下回っている。平成17年では女性が52.9%、男性が46.8%となり、1950年以降最低の割合となっている。

図表 - 3 - 1 女性の15歳～64歳人口に占める有配偶者の割合の推移(都・全国)



資料：総務省「国勢調査」

図表 - 3 - 2 男性の15歳～64歳人口に占める有配偶者の割合の推移(都・全国)

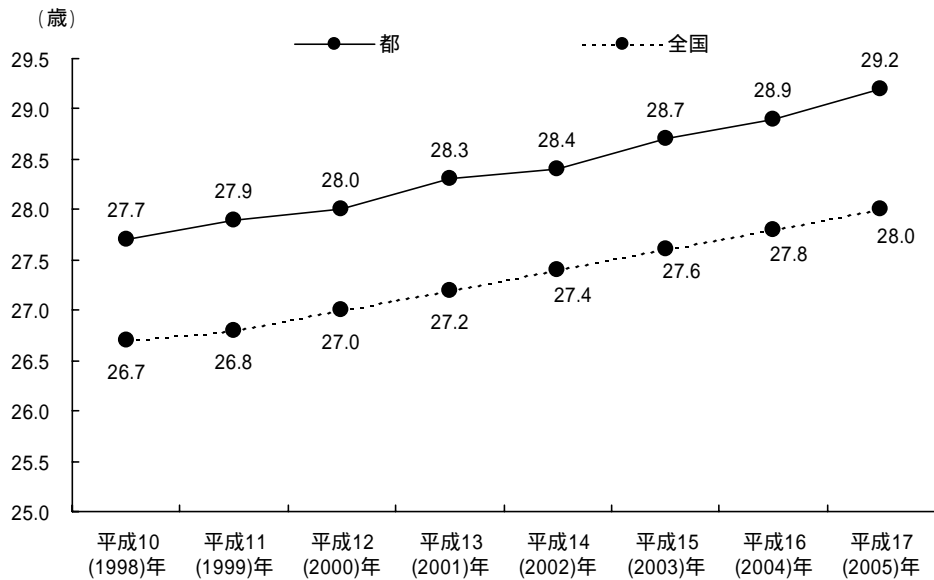


資料：総務省「国勢調査」

4 平均初婚年齢

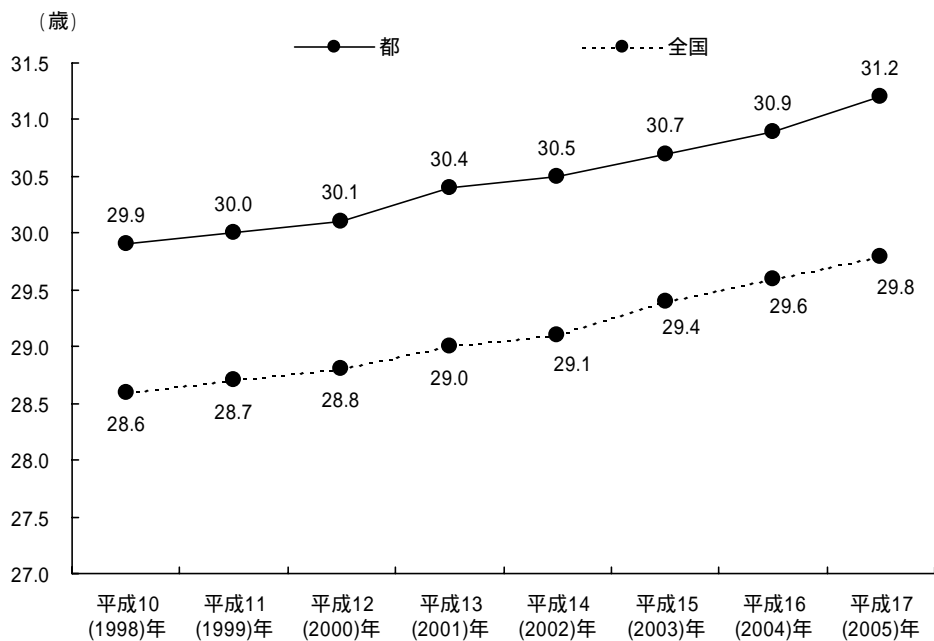
平均初婚年齢は都・全国ともに上昇傾向にあり、都は男女とも全国を上回っている。平成 17 年の都の平均初婚年齢は、女性が 29.2 歳、男性が 31.2 歳となっている。

図表 - 4 - 1 女性の平均初婚年齢の推移（都・全国）



資料：厚生労働省「人口動態調査」

図表 - 4 - 2 男性の平均初婚年齢の推移（都・全国）

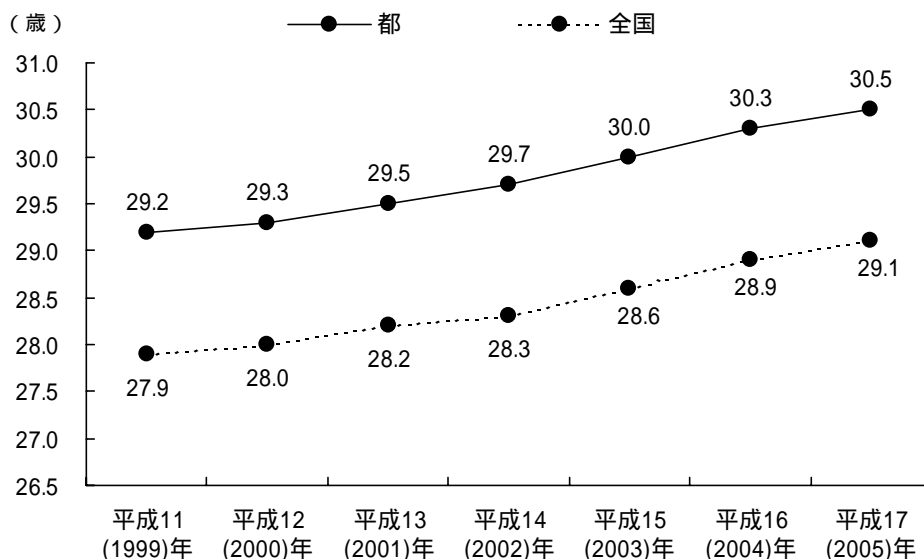


資料：厚生労働省「人口動態調査」

5 第一子誕生平均年齢

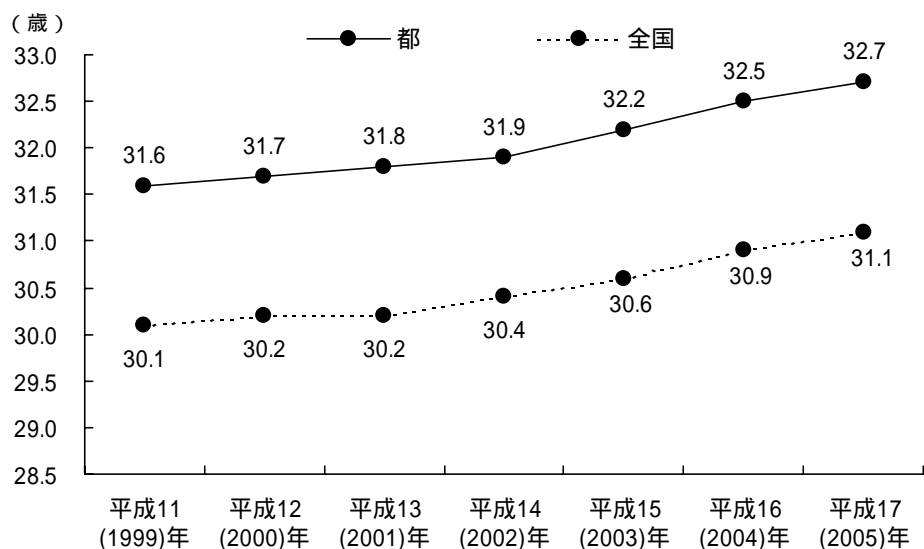
母親及び父親の第1子誕生平均年齢は都・全国ともに上昇傾向にある。父母いずれにおいても東京都は全国を上回っており、平成17年は母親が30.5歳、父親が32.7歳となっている。

図表 - 5 - 1 母親の第一子誕生平均年齢の推移（都・全国）



資料：厚生労働省「人口動態調査」

図表 - 5 - 2 父親の第一子誕生平均年齢の推移（都・全国）

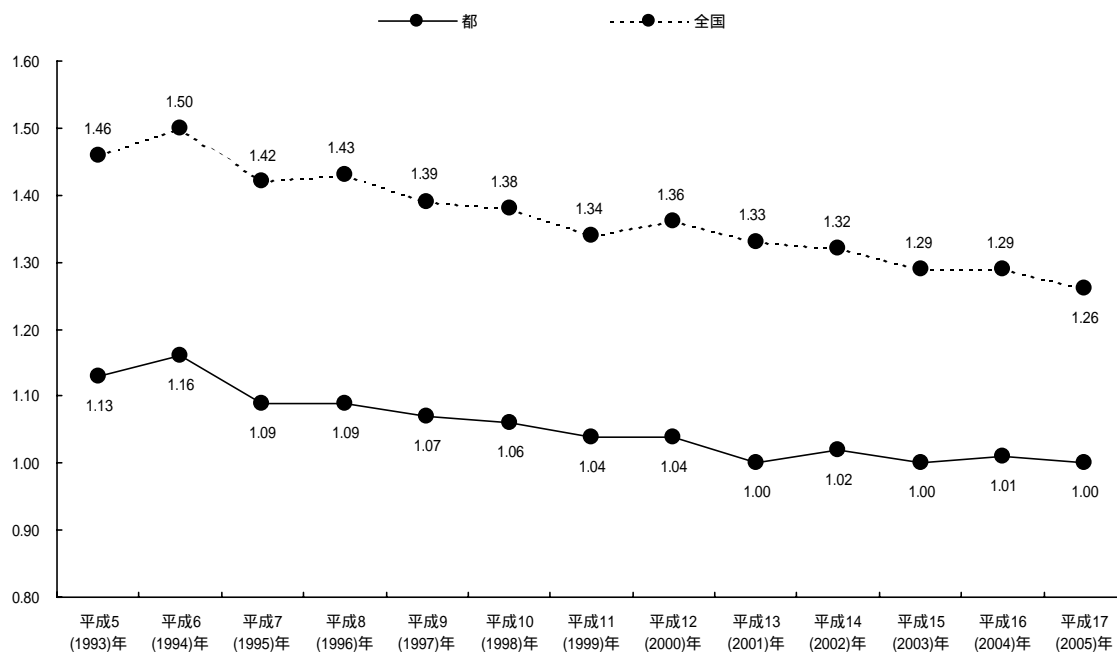


資料：厚生労働省「人口動態調査」

6 合計特殊出生率

平成 17 年の都の合計特殊出生率は 1.00 で、過去最低だった平成 13 年、15 年の 1.00 と同ポイントとなった。この値は全国値の 1.26 よりも低く、依然として現状の人口を維持するのに必要とされている 2.08 を大きく下回っている。

図表 - 6 - 1 合計特殊出生率の推移（都・全国）



注1：合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

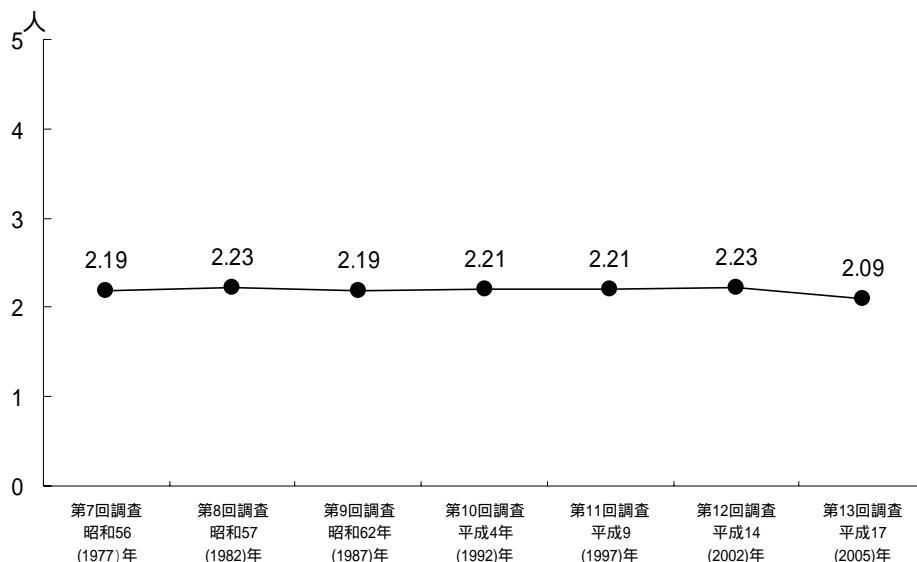
注2：都の合計特殊出生率は、総務省統計局「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」（各年1月1日現在）及び母の年齢別出生率をもとに福祉保健局が算出。

資料：東京都福祉保健局「人口動態統計年報(確定数)」
厚生労働省「人口動態統計(確定数)の概況」

7 完結出生児数

平成17年の夫婦の完結出生児数は2.09であり、子ども数の分布をみると2人が56.0%、3人が22.4%となっている。

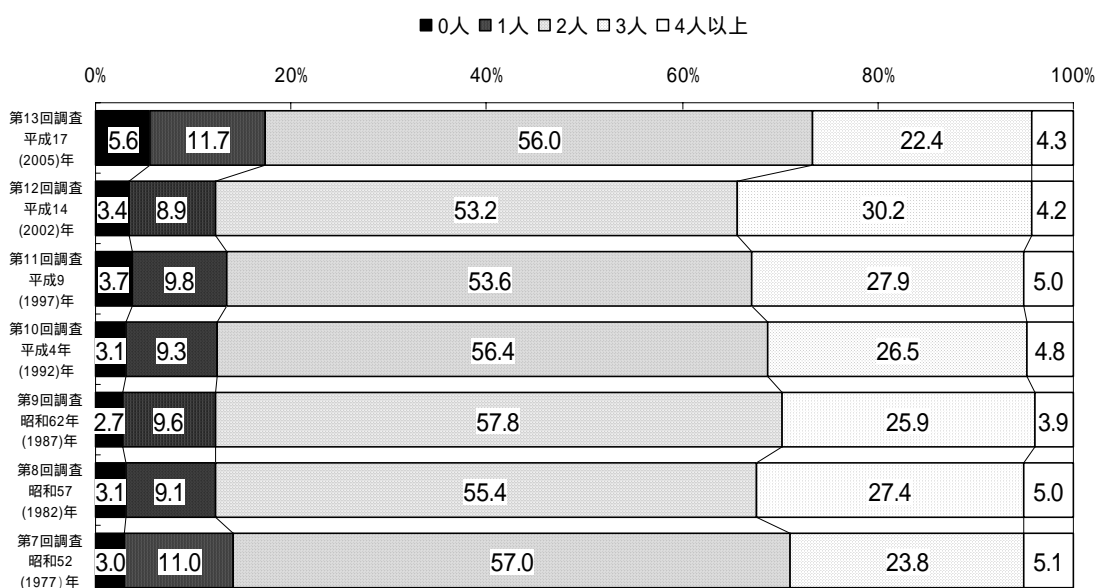
図表 - 7 - 1 夫婦の完結出生児数の推移(全国)



注1：本調査は、妻の年齢が50歳未満の夫婦(夫妻が初婚どうしの夫婦)を対象とした全国標本調査で妻を回答者としている。
注2：完結出生児数とは、結婚持続期間15～19年夫婦の初婚同士の夫婦から生まれた子ども数。

資料：国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査
(結婚と出産に関する全国調査 夫婦調査)」

図表 - 7 - 2 夫婦の完結出生子ども数の分布(全国)

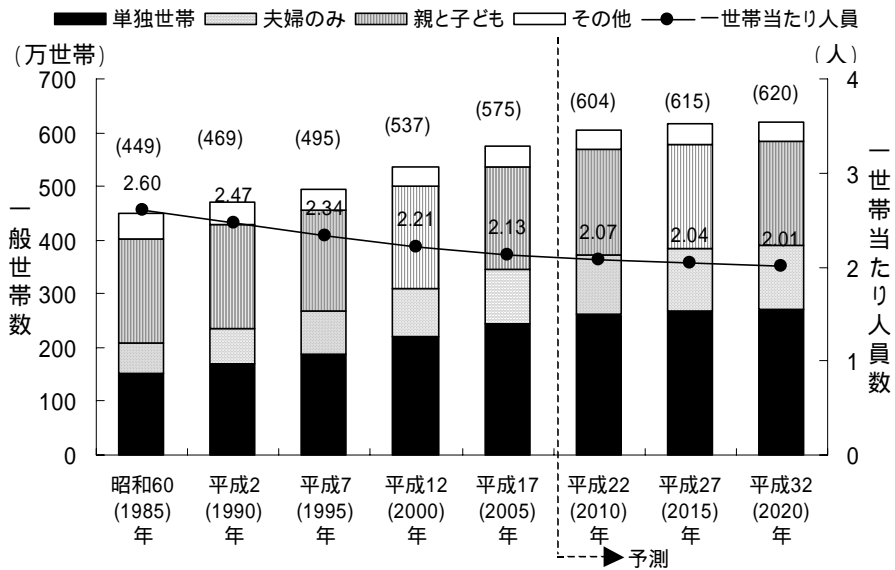


資料：国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査
(結婚と出産に関する全国調査 夫婦調査)」

8 世帯類型別一般世帯数と世帯当たり人員数

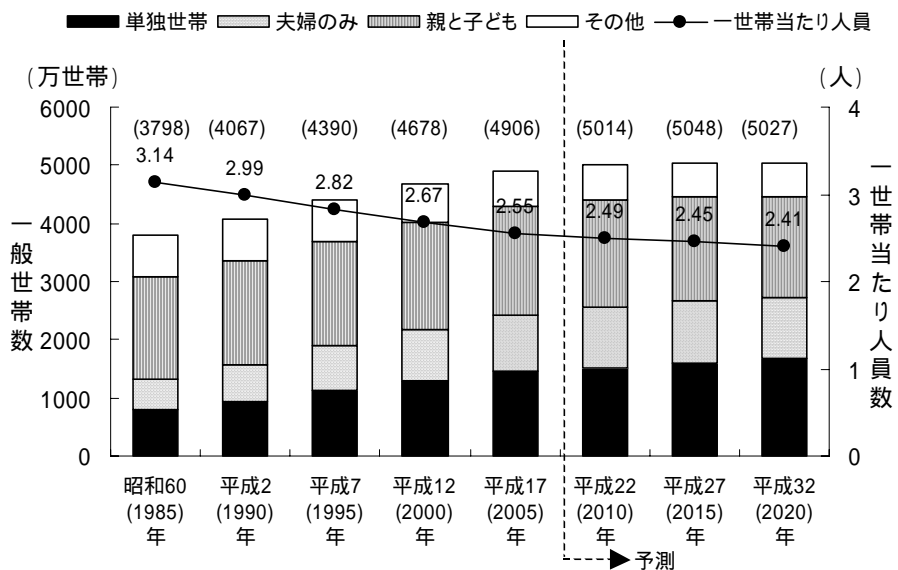
平成 17 年の世帯数をみると、都は 575 万世帯、全国は 4900 万世帯であった。平成 32 年には、都は 620 万世帯で 1 世帯当たりの人員数は 2.01 人となり、全国は 5027 万世帯で 1 世帯当たり人員数は 2.41 人になると予測されている。

図表 - 8 - 1 一般世帯数と世帯の状況(都・全国)
<都>



資料：東京都総務局「東京都世帯数の予測」
総務省「国勢調査」

<全国>

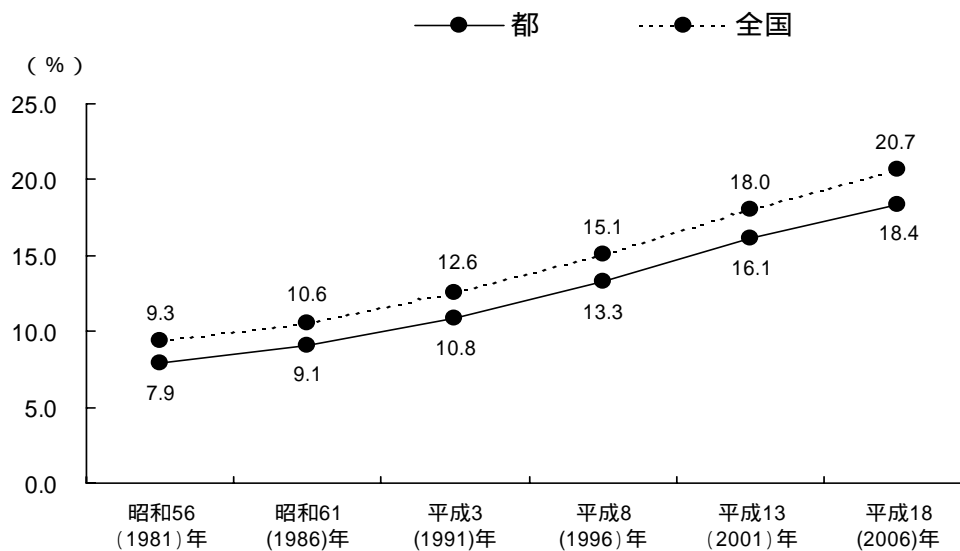


資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」平成 15 (2003) 年 10 月推計
総務省「国勢調査」

9 高齢化率の推移

高齢化率は都・全国ともに上昇傾向にある。平成18年の都の高齢化率は18.4%であり、全国の20.7%を下回っている。

図表 - 9 - 1 高齢化率の推移（都・全国）



注1：高齢化率とは、全人口に占める65歳以上の人の割合。

注2：昭和56(1981)年～平成13(2001)年までは、各年10月1日現在。

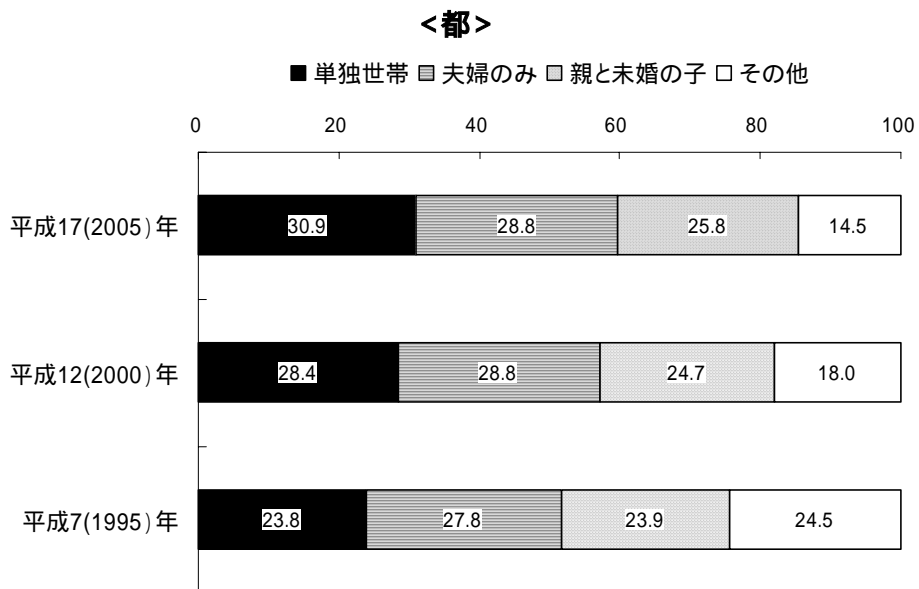
注3：平成18(2006)年の都は1月1日現在、全国は10月1日現在。

資料：東京都総務局「住民基本台帳による世帯と人口」
総務省「人口推計」「国勢調査」

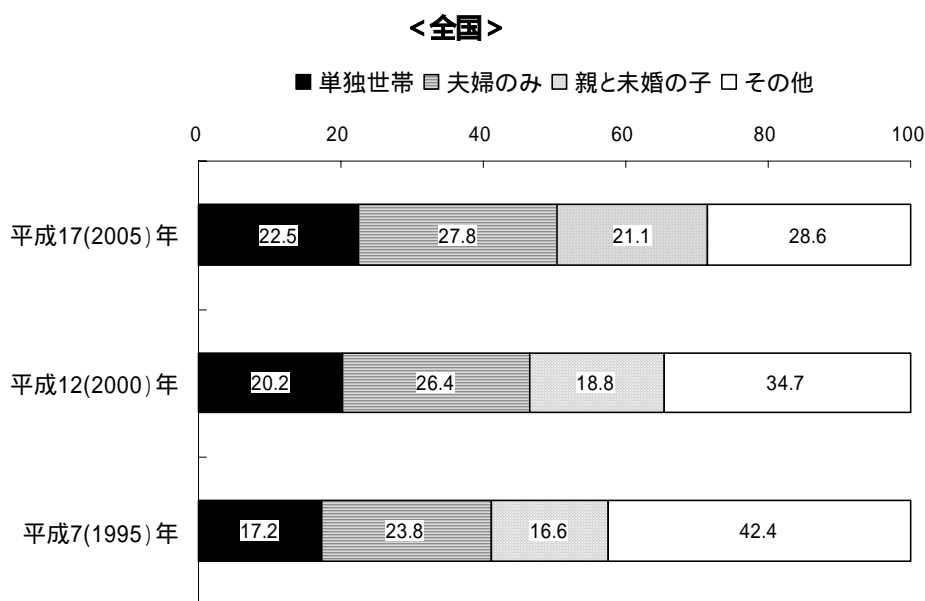
10 65歳以上の者のいる世帯の状況

65歳以上の者のいる世帯の状況をみると、都、全国ともに、単独世帯、夫婦のみ世帯、親と未婚の子の世帯で増加傾向にある。

図表 - 10 - 1 65歳以上の者のいる世帯の状況(都・全国)



資料：総務省「国勢調査」



注1：「単独世帯」とは、世帯員が一人だけの世帯をいう。

注2：「夫婦のみ」とは、世帯主とその配偶者のみで構成する世帯をいう。

注3：「親と未婚の子」とは、夫婦もしくは父親か母親のいずれかと未婚の子のみで構成する世帯をいう。

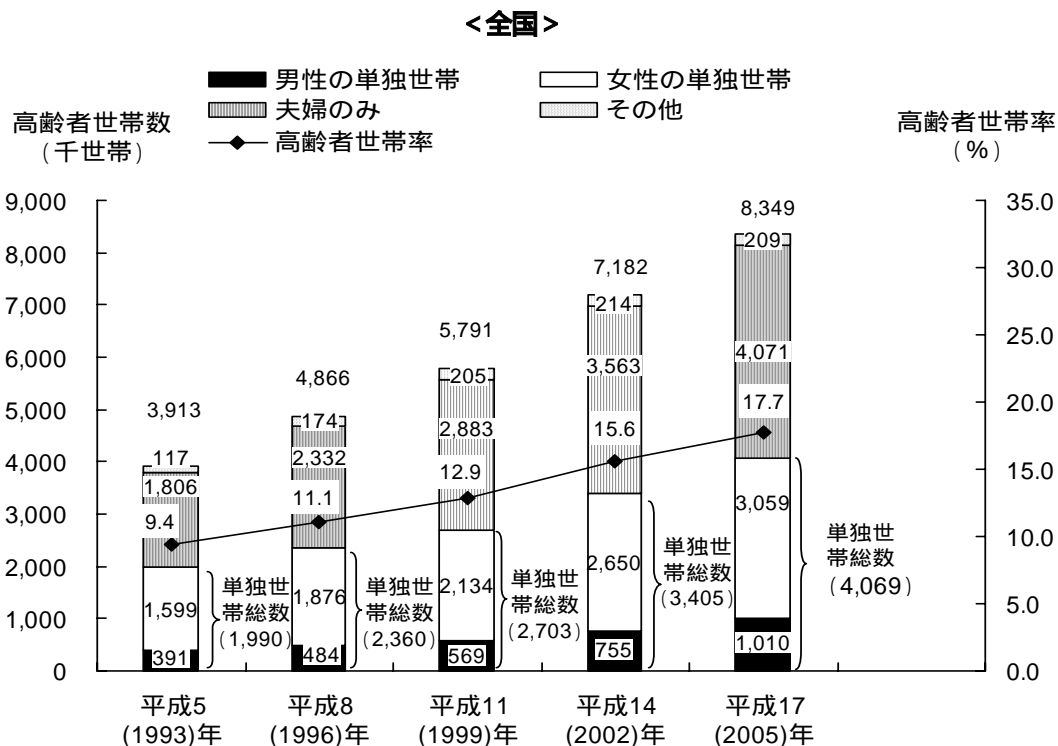
注4：「その他」とは、上記以外の世帯をいう。

資料：総務省「国勢調査」

1.1 高齢者世帯の推移

全国の高齢者世帯数と高齢者世帯率は、年々増加する傾向がみられる。

図表 - 1.1 - 1 高齢者世帯の推移（全国）



注1：高齢者世帯とは、65歳以上の者のみで構成するか又はこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯。

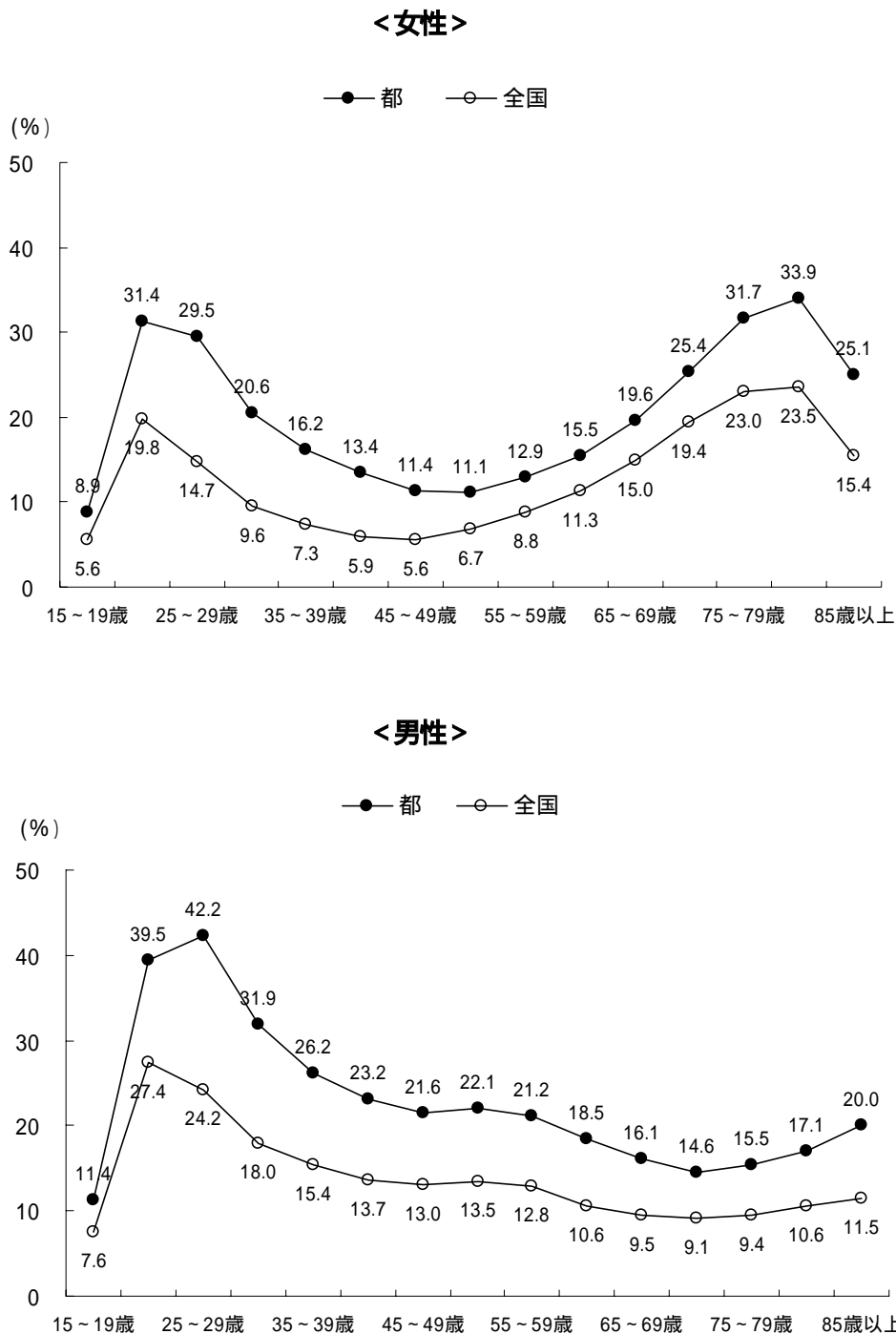
注2：高齢者世帯率とは、全世帯に対する高齢者世帯の割合。

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査の概況」

12 年代別一人暮らし世帯主率

女性は20～24歳と80～84歳の年齢層の一人暮らし世帯主率が高く、男性は25～29歳層の一人暮らし世帯主率が高い。都の一人暮らし世帯主率は全国に比べ男女ともに高くなっており、特に、男性の20代・30代は全国に比べ10%以上高くなっている。

図表 - 12 - 1 年代別一人暮らし世帯主率(都・全国)



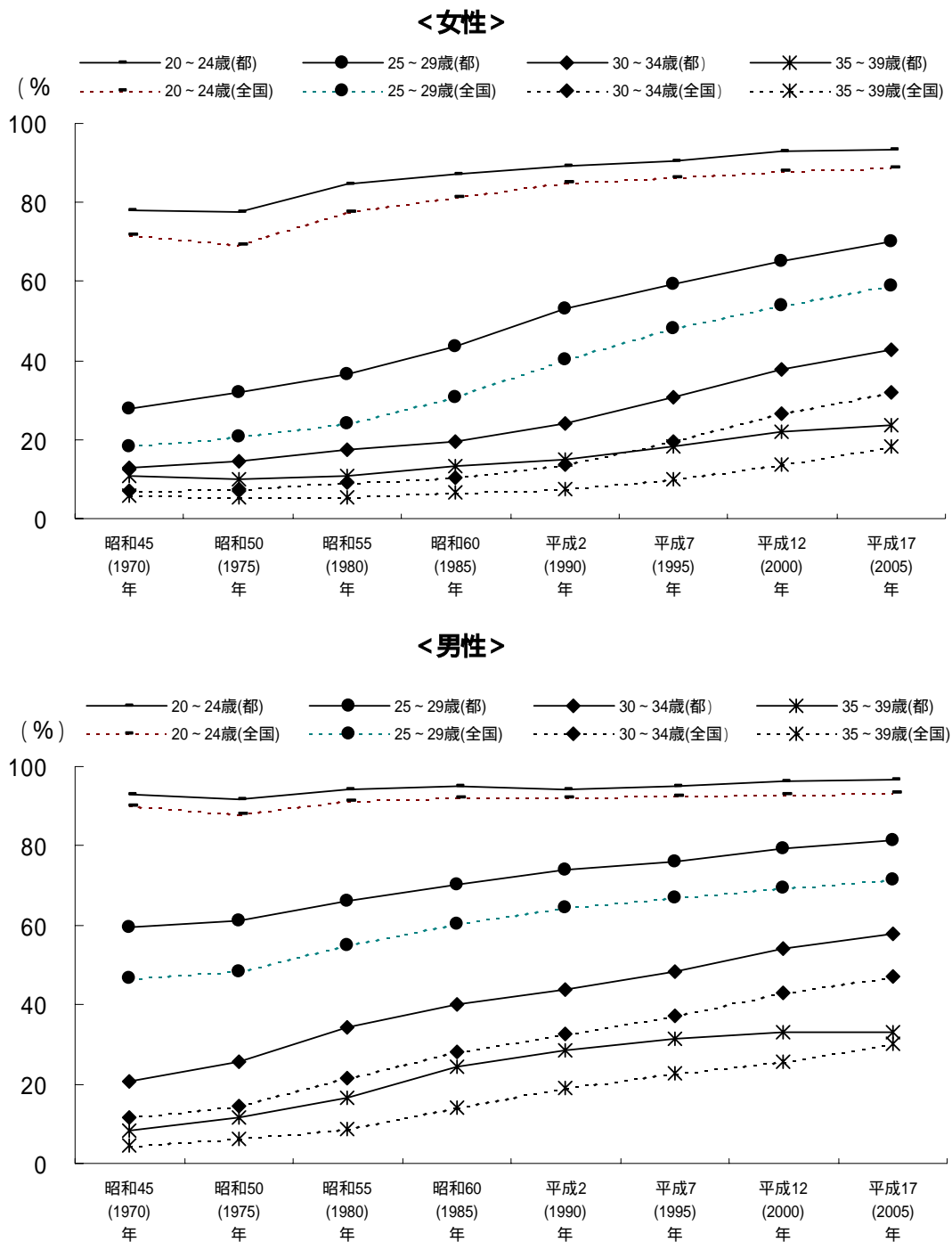
注：世帯主率は世帯数を人口で除し、割合で示している。

資料：総務省「平成17年国勢調査」

13 年齢階級別未婚率の推移

20～39歳の男女年齢階級別未婚率は、都・全国ともに昭和55年以降上昇する傾向にある。また、都の未婚率はすべての年代で全国に比べて高くなっている。

図表 - 13 - 1 年齢階級別未婚率の推移(都・全国)

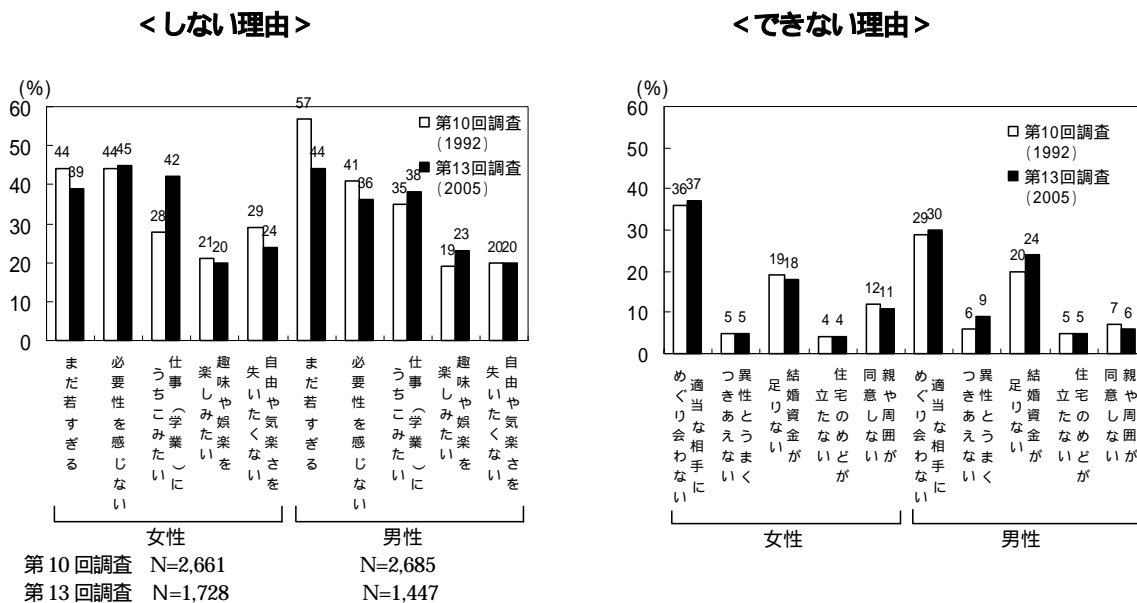


資料：総務省「国勢調査」

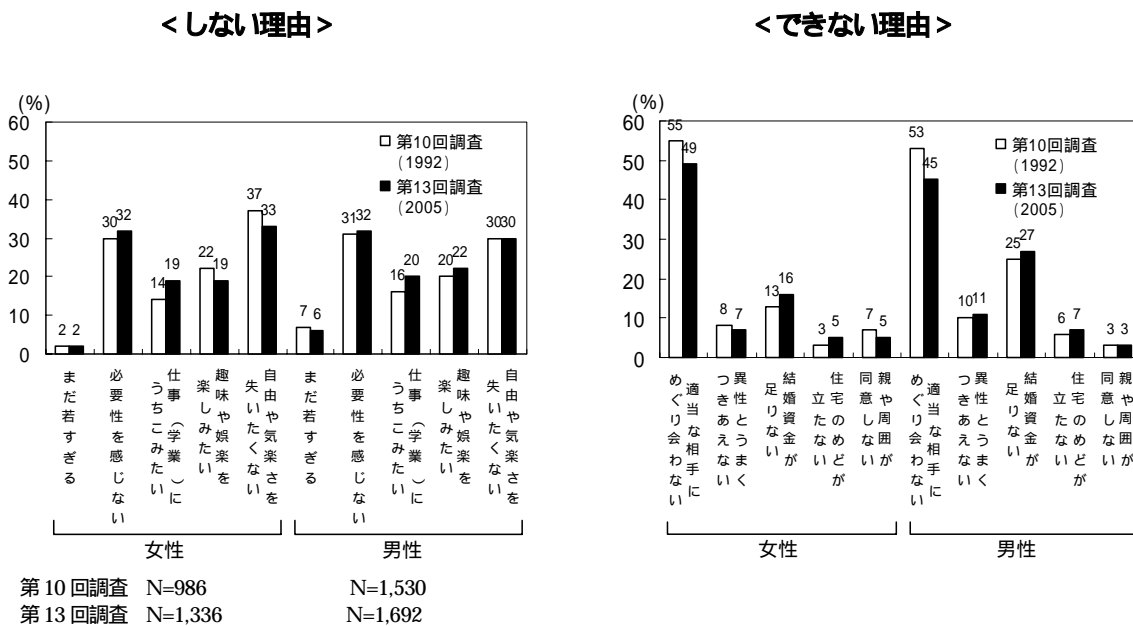
14 未婚者の独身にとどまっている理由

男女とも、18～24歳層の結婚しない理由は「まだ若すぎる」、「必要を感じない」、「仕事(学業)にうちこみたい」が多く、25～34歳層では「必要を感じない」、「自由や気楽さを失いたくない」が多い。18～24歳層の女性では、第10回調査に比べて「仕事(学業)にうちこみたい」の割合が大幅に増えている。結婚できない理由では、「適当な相手にめぐり合わない」、「結婚資金が足りない」が男女とも多くなっている。

図表 - 14 - 1 未婚者の独身にとどまっている理由(全国)
【18～24歳】



【25～34歳】



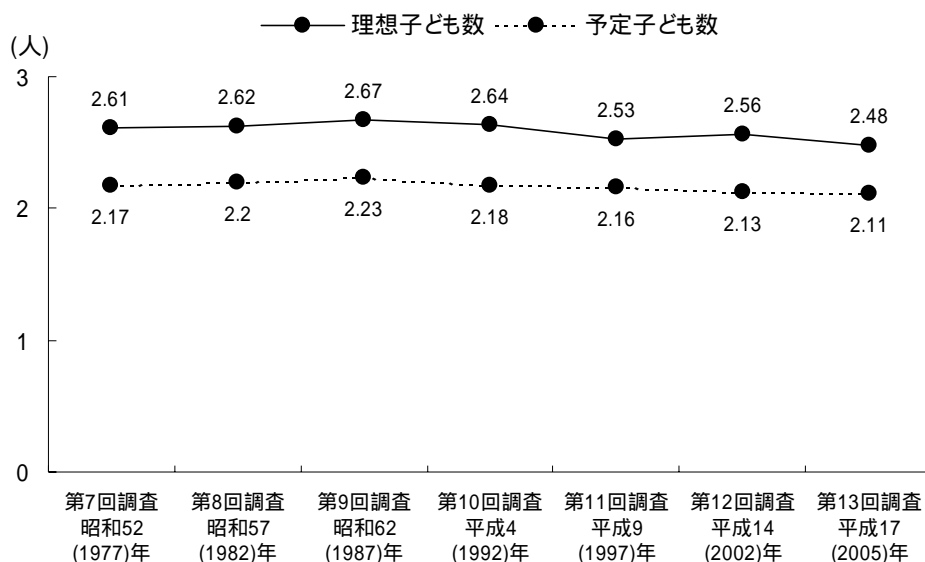
注：本調査は、18歳以上50歳未満の独身者を対象とした全国標本調査である。

資料：国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査
(結婚と出産に関する全国調査 独身者調査)」

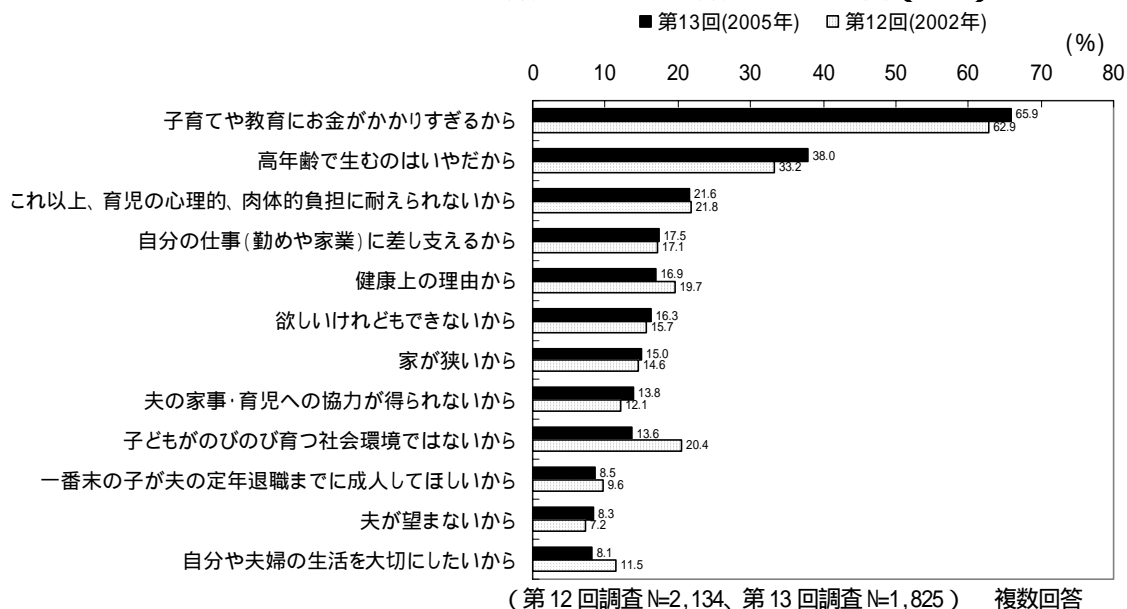
15 理想子ども数と予定子ども数

平成17年（第13回調査）の理想子ども数は2.48人、予定子ども数は2.11人で、予定子ども数は理想の子ども数を下回っている。その理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が65.9%と最も高く、次いで「高年齢で生むのはいやだから」が38.0%となっている。

図表 - 15 - 1 理想子ども数、予定子ども数（全国）



図表 - 15 - 2 予定子ども数が理想子ども数を下回る理由（全国）



注：本調査は、妻の年齢が50歳未満の夫婦（夫妻が初婚どうしの夫婦）を対象とした全国標本調査で、妻を回答者としている。

資料：国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査 夫婦調査）」